資料3-1

東浦町地域公共交通網形成計画及び地域間幹線系統確保維持計画の事業評価について

東浦町地域公共交通会議

平成19年10月１日設置

　東浦町運行バス「う・ら・ら」のうち、東ケ丘・長寿線、平池台・長寿線が、幹線系統として、「愛知県地域間幹線系統確保維持計画」（愛知県バス対策協議会）で位置付けられている。

（１）地域の特性と背景

自家用車の普及により、民間バスの利用者は年々減少し、路線の存続が困難となり、路線の縮小及び廃止をせざる得なくなった。そのため、バスを移動手段としていた人々の交通手段を確保するため、自治体によるバスの運行が必要となった。

東浦町においても、平成13年10月から行政バスの運行を開始した。当初は、東ケ丘マルスと長寿医療研究センター間の１路線を車両1台で運行していたが、現在では、小型車両２台を含む車両６台により７路線を運行している。

【令和元年10月1日以降の路線図】

（２）地域公共交通に関する基本方針等
東浦町地域公共交通網形成計画
（平成28年11月策定）

ア　基本方針

①コンパクトなまちづくりと連携した地域社会の活力の維持・向上

②過度な自動車依存からの脱却と外出交流促進の両立

③「くらしの足」を支え、安心して利用できる生活圏スケールでの公共交通網形成

イ　期間：平成28年度～32年度

2.目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容　(Do)

ダイヤ改正関係

◆東浦町の「おでかけの足」をみんなで考える会
「住民参加で作り上げる持続可能な地域交通」をテーマに、講師による解説や参加者との意見交換を実施。
◆公共交通に関するグループインタビュー
ダイヤ改正を実施するにあたり、住民の公共交通に対するニーズを把握するため、公共交通に関するグループインタビューを実施。
◆東浦町の公共交通に関する町民アンケート
住民の皆さまの「う・ら・ら」の利用状況と今後の利用意向などを把握するため、町民アンケート調査を実施。

バスギャラリー

◆ハロウィンバス（H30.10.6～10.31）
石浜児童館と生路児童館の協力を得て、ハロウィンバスを運行。
◆クリスマスバス（H30.12.1～12.25）
緒川保育園の園児の協力を得て、クリスマスバスを運行。

「う・ら・ら」＆エコモビ達人教室

緒川保育園、藤江保育園及び東ヶ丘幼稚園の年長児を対象に、「う・ら・ら」の車両を用いて乗り方を学ぶ。
また、愛知県の担当者による分かりやすいお話でバスに乗ることが地球に優しいことも学ぶ。

「う・ら・ら」タクシー

「う・ら・ら」を通学用バスとして利用している緒川小学校児童の乗りこぼし対策・安全対策の補完として、「う・ら・ら」タクシーを運行

高齢者の自動車運転免許自主返納支援

「高齢者の自動車運転免許自主返納者に対し、「う・ら・ら」やタクシーなどへの乗車助成を行い、公共交通の利用促進を図る。

「う・ら・ら」有料広告

公費負担額縮減と地元企業等による公共交通を支える意識の拡大を図る。

産業まつりでの広報等

産業まつりで「う・ら・ら」の路線マップや乗り方パネルの展示を行うとともに、知多バスの紹介や時刻表も配布。また、子ども達に「う・ら・ら」のペーパークラフトも配布・作成してもらい、「う・ら・ら」に親しみをもってもらう。

企画乗車券（小中学生10円バス）

自由な時間のある夏休み期間中の小中学生を対象に、「う・ら・ら」を１乗車10円にすることで「う・ら・ら」のPRと、子供同士の利用や家族連れの買い物客などの新規利用者の獲得を図る。

◆東浦町地域公共交通網形成計画事業の実施状況について

東浦町地域公共交通網形成計画事業及びスケジュール									実施状況（平成28年度～）	
基本的な方針		事業の内容	実施主体	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	有無	具体的な内容
コンパクトなまちづくりと連携した地域社会の活力の維持・向上	1－1	公共交通の運行	東浦町地域公共交通会議、利用者部会 東浦町、うらら運行受託業者 バス事業者、タクシー事業者	期間を通じて継続的に実					○	・公共交通の継続運行（H28～）
	1－2	乗り継ぎに配慮した便利な路線及びダイヤの設定	東浦町地域公共交通会議、利用者部会 東浦町、うらら運行受託業者 バス事業者	適宜改善（期間を通じて検討・協議）					○	・新ダイヤ策定のため、各地区グループインタビューや住民アンケート調査等を実施（H30）
	1－3	走行・待合・乗降環境の改善	東浦町地域公共交通会議、東浦町、 バスタクシー事業者、うらら運行受託業者	適宜改善（期間を通じて検討・協議）					○	・バス停の時刻表防護板が汚れ、時刻表が見えづらくなっていたため、全バス停の防護板の取替を実施（H29） ・台風等で倒れる可能性のあるバス停を補強（H29） ・台風対策でバス停を新設（H31）
	1－4	まちづくり部局や観光部局、教育部局等との連携強化	東浦町地域公共交通会議、東浦町、 東浦町観光協会	期間を通じて協議					○	・学校教育課・緒川小学校と連携し、「う・ら・ら」の乗りこぼし対策の補完としてのタクシー運行を実施（H29～）
過度な自動車依存からの脱却と外出交流促進の両立	2－1	公共交通に対する意識啓発 （シンポジウム、セミナーなどの開催等）	東浦町地域公共交通会議、東浦町、住民 うらら運行受託業者、バスタクシー事業者	随時実施					○	・公共交通に関する講演会（東浦町のくらしの足をみんなで考える会）を実施（H30）
	2－2	公共交通に親しむイベントの開催 （バスギャラリーなどの公共交通イベントの開催）	東浦町地域公共交通会議、東浦町、 うらら運行受託業者、バス事業者、住民	毎年実施					○	・町内の児童館や保育園と連携し、子供たちの絵を飾ったハロウィンバス・クリスマスバスを運行（H28～）
	2－3	高齢者の自動車運転免許自主返納の促進 （自動車運転免許自主返納制度の周知・利用促進等）	東浦町、半田警察署、住民	実施	継続的に実施				○	・東浦町高齢者運転免許自主返納支援事業を開始し、高齢者の運転免許自主返納を促進（H28～）
	2－4	総合地域公共交通マップの作成	東浦町地域公共交通会議、東浦町、 うらら運行受託業者、バスタクシー事業者	検討・協議			実施		○	・新ダイヤの路線図に他市町の運行バス及び民間バスの情報を掲載（H31～）
	2－5	町運行バス「う・ら・ら」の利用環境の整備及び利用促進 （バスロケーションシステムの導入などの利用促進策を実施等）	東浦町地域公共交通会議、東浦町、 うらら運行受託業者	実施	継続的に実施				○	・東浦町バスロケーションシステムを導入（H28～）
	2－6	民間路線バスの利用促進 （分かりやすい情報提供等）	東浦町地域公共交通会議、バス事業者 東浦町	期間を通じて検討・協議、実施					○	町HPで民間路線バスやタクシーを紹介するとともに、「う・ら・ら」との接続方法等を紹介（H28～）
	2－7	タクシーの利用促進 （分かりやすい情報提供等）	東浦町地域公共交通会議、タクシー事業者 東浦町	期間を通じて検討・協議、実施					○	
	2－8	タクシーの運賃負担軽減策の実施 （タクシー助成券などの運賃負担軽減策の協議・実施）	東浦町地域公共交通会議、東浦町、 タクシー事業者	実施	期間を通じて検討・協議、実施				○	・東浦町高齢者運転免許自主返納支援事業に、タクシー助成券を導入し、タクシー事業の利用促進を図った。（H28～）
「くらしの足」を支え、安心して利用できる生活圏スケールでの公共交通網の形成	3－1	町運行バス「う・ら・ら」の経路見直し	東浦町地域公共交通会議、利用者部会 東浦町、うらら運行受託業者 バス事業者、近隣市町	検討・協議			実施		○	・新ダイヤ策定のため、各地区グループインタビューや住民アンケート調査等を実施（H30）
	3－2	運賃制度の改善、運賃割引制度等の導入 （企画乗車券の導入等）	東浦町地域公共交通会議、東浦町 うらら運行受託業者、バス事業者 東浦町商工会	検討・協議			実施		○	・夏休み期間中に企画乗車券（小中学生10円バス）を実施（H30～） 利用者数：1,871名（H31）
	3－3	生活圏スケールでの公共交通利用に向けた連携 （近隣市町との情報共有及び連携強化）	東浦町地域公共交通会議、東浦町、 うらら運行受託業者、近隣市町	期間を通じて協議					○	・バスロケーションシステムを導入する際、近隣市町と協同導入を協議した。結果、刈谷市と共同導入を実施し、経費節減を実現するとともに、相互利用促進を図った。（H28～）
	3－4	町運行バス「う・ら・ら」の車両及びバス停留所への協賛促進	東浦町地域公共交通会議、東浦町、 うらら運行受託業者	適宜改善（期間を通じて検討・協議）					○	・既に有料広告の申込みのある企業以外にも積極的に声をかけ、協賛促進を図った。（H28～）

※　事業の内容及び実施主体の詳細については、「第7章　目標を達成するために行う事業及びその実施主体に関する事業」における各「実施する事業」を参照。

評価方法

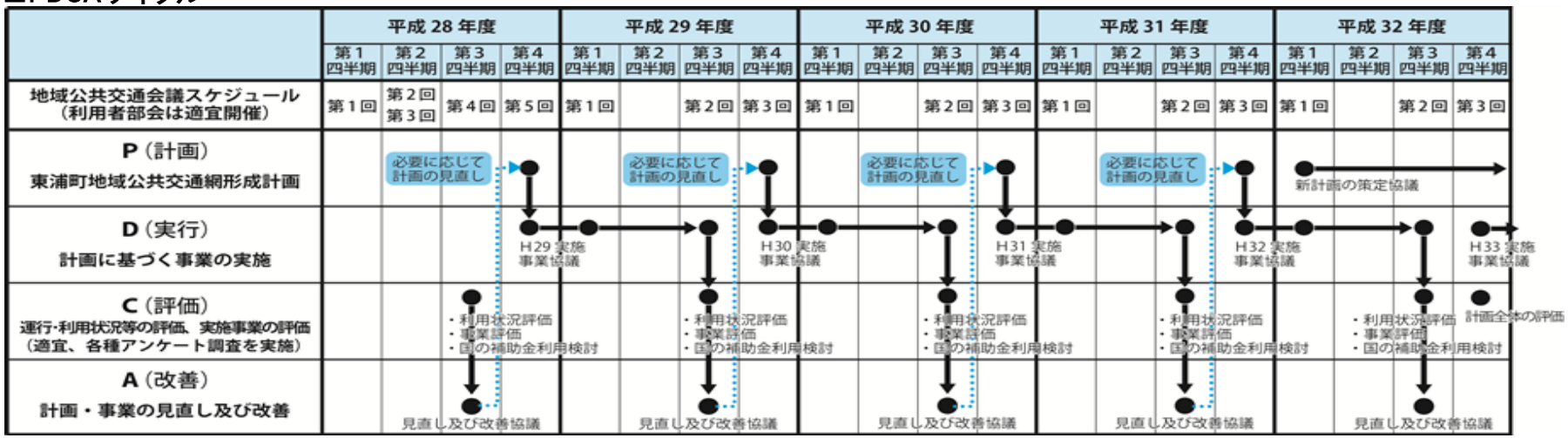
バス路線などの利用状況及び計画に定めた事業の実施結果に関する評価については、前年度以上の数値を目標に毎年度実施する。計画の評価は、最終年度（平成32年度）に各種アンケート調査を踏まえ、計画全体及び地域公共交通全体の再編の評価・検証を実施する。

■計画の各目標の評価スケジュール

【凡例】 ●：実施　▲：必要に応じて実施

計画の目標	目　標　内　容	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	H32 年度	備　考
目標１ まちづくりと一体となった公共交通網の構築	駅勢圏半径 800m、バス停勢圏 300mにおける人口カバー率			▲		●	別途調査
	住民の公共交通機関への満足度			▲		●	住民アンケート調査を実施
	町運営バス「う・ら・ら」の満足度			▲		●	利用者アンケート調査を実施
目標２ 公共交通への転換による過度な自動車依存からの脱却	町運営バス「う・ら・ら」全路線１便あたりの乗車人数の増加	●	●	●	●	●	
	高齢者 (65 歳以上) の自動車運転免許証自主返納件数の増加	●	●	●	●	●	
	高齢者 (65 歳以上) の外出頻度の増加			▲		●	住民アンケート調査を実施
目標３ くらしの足の確保による住民のＱＯＬ※の保証 (※ＱＯＬ：Quality of Life の略。生活の質。)	町運営バス「う・ら・ら」の利用者の増加	●	●	●	●	●	
	町運営バス「う・ら・ら」刈谷線及び長寿線の利用者の増加	●	●	●	●	●	
	タクシー利用台数の増加	●	●	●	●	●	
	住民の公共交通機関への満足度			▲		●	住民アンケート調査を実施
	町運営バス「う・ら・ら」への財政投入額	●	●	●	●	●	

■PDCAサイクル



（１）補助系統路線の乗車人数

路線名	乗車人数（人）			目標の達成度	前年比	
	H30年度（H29.10～H30.9）	H31年度（H30.10～H31.9）	目標数		乗車人数（人）	%
東ヶ丘・長寿線	83,768	87,280	84,606	103.2%	3,512人	104.2%
平池台・長寿線	62,463	61,378	63,261	97.0%	△1,085人	98.3%

【東ヶ丘・長寿線】

・前年比104.2%で増加傾向となり、目標に対しても105.2%で達成することができた。
・公共交通検索サービスの導入や企画乗車券（10円バス）の導入などの利用促進策の効果があったと考えている。
・約５人に１人が市町を跨いでの利用となっており、広域的な路線の役割を果たしている。主に大府市にある長寿医療研究センターへの通院やげんきの郷への利用となっている。

【平池台・長寿線】

・前年比98.5%で減少傾向となり、目標に対しても98.7%で達成することができなかった。
・公共交通検索サービスの導入や企画乗車券（10円バス）の導入などの利用促進策の効果があったと考えているが、それ以上に小学生の通学利用者が減少している。
・約４人に１人が市町を跨いでの利用となっており、広域的な路線の役割を果たしている。主に大府市にある長寿医療研究センターへの通院やげんきの郷への利用となっている。

（２）４路線５系統の乗車人数等

路線名	利用実績						
	平成30年度（H29.10～H30.9）		平成31年度（H30.10～H31.9）		前年比		
	乗車人数（人）	1便当たりの乗車人数（人）	乗車人数（人）	1便当たりの乗車人数（人）	乗車人数（人）	%	1便当たりの乗車人数（人）
刈谷線	21,485	5.92	22,100	6.09	615	102.9%	0.17
長寿線	42,321	6.48	42,712	6.54	391	100.9%	0.06
東ヶ丘線	105,266	15.26	108,256	15.70	2,990	102.8%	0.43
平池台線（体）	54,125	16.57	51,755	15.84	△ 2,370	95.6%	△ 0.73
平池台線（ふ）	46,302	18.22	45,206	17.79	△ 1,096	97.6%	△ 0.43
計（A）	269,499	11.78	270,029	11.81	530	100.2%	0.02
乗継券利用者（B）	8,965	-	8,797	-	△ 168	98.1%	-
合計（A）-（B）	260,534	11.39	261,232	11.42	698	100.3%	0.03

【全体】

・乗車人数、1便当たりの乗車人数が共に増となった。

・バスギャラリーや企画乗車券（小中学生10円バス）などの施策により、児童・生徒の利用は増加傾向にあるが、これまでう・ら・らを利用してきたヘビーユーザーが、高齢化の進展を理由に利用しなくなってきている可能性がある。

・ 年間を通して大きなトラブルもなく、運行を継続できている。

【刈谷線】

・乗車人数、1便当たりの乗車人数が共に増となった。

・刈谷豊田総合病院への通院や刈谷駅への利用となり、広域的な路線としての役割を果たしている。

【長寿線】

・乗車人数、１便当たりの乗車人数が共に増となった。

・長寿医療研究センターから緒川駅方面で減少となったが、緒川駅から長寿医療研究センターで増となっている。緒川駅が760名増。
森岡が73名と大きく伸ばしたため全体的に利用者数が増となった。

・長寿医療研究センターへの通院やげんきの郷への利用となり、広域的な路線としての役割を果たしている。

【東ヶ丘線】

・乗車人数、１便当たりの乗車人数が共に増となった。

・緒川小学校への通学利用者は減少しているが、ＪＡ新田支店や新田分団詰所の乗車人数が前年度比約120%と大きく数値を伸ばしたため、全体的に利用者数が増となった。

・緒川新田地区で企画乗車券（小中学生10円バス）利用者が多く、利用者増に繋がった。

・高齢者等の交通弱者や小学生の通学などに利用され、生活交通の確保の役割を果たしている。

【平池台線（体育館経由】

・乗車人数、1便当たりの乗車人数が共に減となった。

・アイプラ前や緒川駅東口で増となっているが、体育館東と藤江小学校西などで大きな減があり、全体的に減となった。

・体育館東は定期利用者の利用が減少している。

・藤江小学校の通学利用者が大きく減となっている。

・高齢者等の交通弱者や小学生の通学などに利用され、生活交通の確保の役割を果たしている。

【平池台線（ふじが丘経由】

・乗車人数、1便当たりの乗車人数が共に減となった。

・藤江小学校西をはじめ数多くのバス停で減少傾向が見られた。これは通学利用者の減少や高齢化等の理由から定期利用者が離れたのではないかと推測している。

・高齢者等の交通弱者や小学生の通学などに利用され、生活交通の確保の役割を果たしている。

（３）高齢者（65歳以上）の自動車運転免許自主返納件数

年度	返納者数				
	計	支援内訳			
		トイカ	マナカ	ICカードへの入金	タクシー助成券
平成29年度	155	61	19	12	63
平成30年度	139	58	31	13	37
前年度比	△ 16	△ 3	12	1	△ 26
（参考）平成31年度10月現在	122	53	15	7	47

・支援者数が減となっている。

・返納者の今後のくらしの足を確保し、安心して自主返納のできる環境を作る必要がある。

（４）タクシー利用台数

平成29年度	平成30年度	前年比
25,625台	24,073台	△1,552台

※利用台数は、東浦町内での乗車台数

※利用台数は、大興タクシー㈱、名鉄知多タクシー㈱、安全タクシー㈱での合計台数

・利用台数が減となっている。

・乗務員不足による稼働低下の影響が大きい。

（５）「う・ら・ら」への財政投入額

	平成29年度	平成30年度	前年比
委託料総額（A）	70,844,764	70,844,764	0
運賃収入等（B）	16,773,209	18,218,447	1,445,238
地域公共交通確保維持改善事業費補助金（C）	10,227,000	7,571,000	△ 2,656,000
有料広告収入（D）	968,839	786,000	△ 182,839
計 （A）－（B）－（C）－（D）	42,875,716	44,269,317	1,393,601

・財政投入額は、1,393,601円の増となった。

・委託料は5年契約であり、ダイヤ改正等の変更もなかったため、金額に変更はなし。

・運賃収入は順調に伸びている。今後も補助金以外の収入を確保できるよう努めていく。

4.自己評価から得られた課題と対応方針　(Act)

【自己評価から得られた課題】

・利用者が減少傾向にある路線については、原因をしっかり調査する。増加傾向にある路線については、利用者増が一過性の変化にならないよう注視していく。
・高齢化が進み、今まで利用していた方の利用離れが始まっている可能性がある。
・今後小学生の通学利用者が減少していくが、全体の利用者が減少しないようにさまざまな施策を継続的に実施していく必要がある。
・バス運転手やタクシー運転手など、公共交通に従事する方が慢性的に人手不足となっている。
・今後も公費負担額の減に努めていく必要がある。

【対応方針】

・アンケート調査などの意見も踏まえ、より利便性が高まるよう網計画を改訂する。
・現在、園児向けに乗り方教室を実施しているが、より幅広い年齢層にバスを利用してもらうため、大人向け（特に高齢者向け）の乗り方教室の実施していく。
・バスギャラリーや企画乗車券、公共交通検索サービスなどを継続的に実施していき、利用者の増加とPRを図る。
・高齢者や身体の不自由な方でも利用しやすいよう、待合環境の改善を進める。
・バス運転手等の人手不足を解消していくため、国や県、事業者に積極的に協力していく。
・現在の有料広告の枠に囚われず、様々な視点から公費縮減を図っていく。